

第14回 3次元活用フォーラム「建築」セッション



2018年5月24日 10:30 - 12:00

2018-03-25

		芝浦工業大学 建築学部建築学科 教授	
オーガナイザー		志手一哉	[自己紹介] 1992年～2013年まで竹中工務店に勤務、2014年より現職。建築生産マネジメント研究室と銘打ち、BIMを含めた建築生産プロセス全般を対象に研究を進めている。 博士(工学)、技術経営修士(専門職)、一級建築士、1級施工管理技士、認定ファシリティマネジャー
		宮内 博之	国立研究開発法人 建築研究所 材料研究グループ 主任研究員 [自己紹介] 東京工業大学助教、韓国・忠南大学校副教授を経て、2014年度より現職。2016年度より建築研究所、日本建築学会、国交省建築関連事業にて建築分野でのドローン技術基盤を作り、2017年9月に(一社)日本建築ドローン協会(JADA)を設立。博士(工学)、JADA副会長
		小島 昌樹	株式会社東急コミュニティー マンション企画戦略事業部 保全統括センター 室長 自己紹介 1999年入社。既存建物の長期修繕計画、劣化診断、改修設計業務を中心に維持保全・建物リニューアル業務等を行なう。2016年から現職。独自の維持保全管理サービス『建診力(けんしんりょく)』責任者。一級建築士
		佐藤 純一	日比谷総合設備株式会社 エンジニアリングサービス統括本部 管理部 【自己紹介】 2008年7月入社 工事支援部配属 CADによる施工図作成、施工検討などの工事支援業務を実施。最近ではBIM案件の対応、現場でのICT活用推進、iPadの現場活用推進などに取り組んでいる。 【発表概要】 3Dスキャナーは、点群データから現況図を作成しBIMデータとして活用するツールであったが、取り扱うデータ容量が大きい、撮影機材のセットに時間がかかるなどのデメリットがあった。2014年に導入した全天球型カメラ『THETA』(RICOH社)は、3Dスキャナーより簡単に現地を確認するツールとして活用してきた。THETAで撮影したパノラマ画像に対象設備の情報を付加することで、維持管理ツールとして活用が期待できる。本セミナーでは、その取組事例について紹介する。

連絡先: スーパーポイントリサーチ
河村 koji@sparj.com 045-482-3073